

[ライブ・サーティ]

# Live30

<http://www.omichikai.or.jp>

VOL.

## 204

2014年  
5月-6月



### CLOSE UP

医療従事者として求められる基本的教養など幅広い知識を習得

## 平成26年度新人集合研修を開催

OMICHI ACADEMY

アメリカ小児科学会・アジア小児科学会合同会議

回復期リハビリテーション病棟協会第23回研究大会 in 名古屋

第5回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会

OMICHI SCRAMBLE

日本福祉大学大学院社会福祉学研究科修士課程修了

グリーンライフ・ボバース記念病院歯科診療部合同実践報告会

INFORMATION

IBITA 教育委員会に参加

土井鋭二郎 PT 科員が上級講習会インストラクターに就任



最優秀賞  
「Live30」  
雑誌掲載の功績に因りて  
最も優秀であったことを認め、  
IBITAグループを贈ります  
日本福祉大学

この春、社会医療法人大道会に64名の新人職員が就職しました。今年度も新人教育集合研修を開催しました。同研修のコンセプトやプログラム内容をご紹介します。

医療従事者として求められる基本的教養など幅広い知識を習得

## 平成26年度新人集合研修を開催

大道会の施設や  
部署などについて紹介

3月24日～28日に、平成26年度の新人職員を対象とした新人教育集合研修を開催しました。同研修は、新入職員がスムーズに現場での業務に取り組めるよう30年以上前から毎年、実施しています。医療従事者・大道会職員としてはもちろんのこと、社会人としての意識づけを行うことも目的としており、医療業界の現状をはじめ、大道会の各施設・部署の紹介、接遇、個人情報管理についてなどのプログラムを用意しました。

同研修の特長として、一部の講義を除き、法人内のトップ層や管理職が講師を担当していることが挙げられます。研修初日には天野常務理事が医療業界の変遷、大道会職員に求めるものなどを紹介する講義を行いました。入職式のある2日目には大道道大理事長より、「経営トップから新人に望むこと」と題し、多角的な視点で新入職員へのメッセージを伝えました。また、宮井副理事長は森之宮病院の特色や近年の状況、教育・研究について講義を行いました。

マネジメント力強化研修トレーナー  
たちが、実践に生かせる講義を実施

平成22年度より実施しているマネジメント力強化プロジェクトにおいて、選ばれたトレーナー8名が、講義を担当しました。森之宮病院看護部館川科長・柴田科長、リハビリテーション部椎名副部長、砂古口科長はコミュニケーションの重要性に主眼をおき、グループワークを取り入れた講義を行いました。与えられた課題に取り組むために、より良いコミュニケーション方法を模索する中で、「コミュニケーションの取り方で作業結果に大きく差が出て驚いた」「他職種の職員との交流を深められた」などの感想が出ました。また、森之宮病院看護部の福



リハビリテーション部椎名副部長による講義の様子



グループワークでは、各班が協力して課題に取り組み、コミュニケーションの手法を学んだ



新入職員は、どの講義も熱心に受講した

井科長・正壽科長は、「初めてヘルスケア分野で働く新人へ」のテーマで、医療のプロフェッショナルとして働くこと、社会人基礎能力についてなど、これからの業務にすぐに生かせる知識をレクチャーしました。同院診療部医療社会事業課の藤井課長と地域医療連携室の杉浦課長は、それぞれの業務内容について、法人内外の連携の重要性をふまえわかりやすく説明しました。トレーナーは、今後新入職者が受講予定の1年目・2年目フォローアップ研修も見据えた、一貫性のある講義プログラムを企画しており、継続した研修の効果が期待できます。

メンタルヘルス・個人情報管理など、  
現代社会に応じた研修

新入職員のお大半は、初めて社会人として働きます。無理なく社会人としてスタートできるようにサポートする講義を取り入れているのも同研修の特長です。帝国ホテルクリニックの沖永医長は、メ

ンタルヘルスケアについての講義を毎年行っています。ストレスへの対処法、ストレスをためないための考え方についてなどを紹介しました。また、本部管理部門課高間主任からは、ソーシャル・ネットワーク・サービズ(SNS)利用のマネーや業務上知り得た個人情報の扱いの注意点について、具体例を挙げて説明がありました。新入職員にとっては非常に身近なテーマであり、熱心に聞き入っていました。

今後につながる研修をめざして

今年度は初めての試みとして、研修最終日に研修内容についての小テストを実施しました。「研修で学んだことを復習でき、気が引き締まった」との声が聞かれました。また、研修終了後に提出された研修日誌からは、新入職員が法人の特色を理解し、医療従事者としての自覚を持ち始めたことが感じられました。

新入職員は4月より現場に出て、医療従事者として社会人のスタートをきります。活発で前向きな姿勢は、先輩職員への刺激となり、フレッシュな風をもたらしてくれることと期待しています。今後も、研修で学んだことを土台とし、それぞれの部署で力を伸ばして欲しいと思います。

(本部管理部門課 稲持百瑛)

平成26年度新人教育集合研修プログラム (\*印は外部講師)

	3月24日(月)	3月25日(火)	3月26日(水)	3月27日(木)	3月28日(金)
研修内容・講師	オリエンテーション (新人研修を受講するにあたって、自己紹介)	入職式	森之宮病院 システム管理室 安藤副部長 「電子カルテ・ ジョインギアについて」	宮井副理事長 「森之宮病院が 目指すもの」	Y G 検査
	天野常務理事 「新人に望む10項目」 「当会の経営理念&法人概要」 「社会医療法人とは」	森之宮クリニック 吉田統括部長 「がん検診とPET,CTについて」	互助会 柴田会長 「互助会について」	森之宮病院事務部 水谷課長「保険医療 機関が守るべき療養 担当規則について」	森之宮クリニック 企画広報部 医療コンシェルジュ 荒木課長 「接遇講習—患者と顧客対応 の実践①」
	森之宮病院 リハ部 椎名副部長、 砂古口科長 看護部 柴田科長、 舘川科長 「グループワーク」	大道クリニック 小山主任 「人工透析と無呼吸 症候群治療について」	帝国ホテルクリニック 健診部内科 沖永医長 「メンタルヘルスケアにつ いて」	本部管理部 高間主任 「人事課オリエンテ ーション①/就業規則・ 社会保険制度・人権・個人情報管理 ・ハラスメント・守秘義務について」	森之宮病院事務部 理事長秘書 医療コンシェルジュ 川谷主任 「接遇講習—患者と顧客対応 の実践②」
	在宅事業部 高落統括 「当会の在宅関連 事業について」	グリーンライフ 濱田施設長 「介護老人保健施設・ グリーンライフの役割と今後 の方向性」	森之宮病院看護部 福井科長、正壽科長 「初めてヘルスケア 分野で働く新人へ」	森之宮病院看護部 福岡部長、 ボバース記念病院 看護部 白樫部長 「当会各施設における 看護部の使命と役割」	本部管理部 高間主任 「人事課オリエン テーション②/就業規則・社 会保険制度・人権・個人情報 管理・ハラスメント・守秘義務 について」
	社会福祉法人山手学園本部 畑事務局長 「山手学園について」	ボバース記念病院 今林院長 「ボバース記念病院 が目指すもの 職場の安全衛生について」	城東消防署 * 「防災について」	森之宮病院 医療社会事業課 藤井課長 森之宮病院 地域医療連携室 杉浦課長 「地域医療連携室・ 医療相談室の役割」	人事課オリエンテーション (研修まとめ)
	大道理事長 「経営トップから 新人に望むこと」	城東警察署 * 「防犯について」	本部渉外担当 峰部長 「医療機関での 防犯・防災について」	森之宮病院 心臓血管センター 大久保部長 「森之宮病院の急性期医療について」	※各施設に配属
	森之宮病院 歯科診療部 旭部長 「歯科診療部について」			森之宮病院 リハビリテーション部 永島部長「当会リハ ビリテーションの強みと特長」	

新入職員 研修レポート

新入職員が受講後、提出した研修レポートの中から、抜粋して紹介します。



大道会が地域の方々とともに  
歩んでいることを実感できた

小西 智洋 森之宮病院診療技術部薬剤科

大道理事長より、「これから1年間は誰に何を聞いてもよい」「行動にはすべて理由が伴っている。曖昧なことは必ず確認すること」と教わりました。行動の理由を理解し仕事に励みたいと思います。天野常務理事の講義では社会医療法人の使命やモニター会の存在を聞き、大道会が地域の方々とともに医療に携わっていると改めて実感しました。また、宮井副理事長のお話で一番印象に残ったのは、人材育成のための教育と研究です。ただ人材育成をするだけでなく、患者さん・利用者の方々からのクレームや激励を真摯に受け止め、職員や新人の育成の糧にしている点が素晴らしいと感じました。



医療人・社会人としての自覚をもち  
成長していきたい

櫛引 翔太 ボバース記念病院  
リハビリテーション部理学療法科

研修ではこれから働く上で重要な内容を幅広く学ぶことができました。第一にチーム医療の重要性についてです。様々な職種の新人との交流で、コミュニケーションの難しさ、自分のことを伝え理解してもらう難しさを再認識し、今後患者さんにどう伝えるかを見直す良いきっかけとなりました。第二に、医療人・社会人としての心構えです。個人情報の取り扱いや接遇の重要性を知り、「治療では治療者がすべての責任をとる」と教えて頂いたことから、その自覚をしっかりと持たなければならないと感じました。医療人として、また、一人の人間として大きく成長していきたいと思っています。



グループワークの学びをチーム医療に  
活かしていきたい

小川 結子 森之宮病院診療部医療社会事業課

グループワークは、同じ作業を4回、手法を少しずつ変えて取り組むものでしたが、各回でグループ内の様子、ワークの達成度に変化し、グループ内の相互支援やチームワークを良好にするためのコアスキルが大きく関わっていることを実感できました。なかでも、言葉を使わずに作業に作業しただけでは、非言語的コミュニケーションで相手が何を求めているのかを察しながら関わるという貴重な経験ができました。このワークを通じて、グループ内の他者の動きやグループ全体を観察する力の重要性を実感し、今後チームの中で働く上でもこの体験を活かしていきたいと感じました。

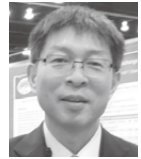


社会人基礎力の向上に努め、  
よりよい医療の提供を目指す

川端 真美子 森之宮病院看護部病棟看護科6階西

森之宮病院看護部福井科長、正壽科長のお話を聞き、ヘルスケア分野には様々な専門性があり、多職種が連携しそれぞれの役割を果たすことで、患者さんによりよい医療を提供できることがわかりました。そのためには専門性だけでなく、社会人としての基礎力(前に踏み出す力・考え抜く力・チームワーク)を向上させなければなりません。その中には研修の他の講義で学んだコミュニケーションや状況把握、ストレスコントロールも含まれていました。今はまだ新人ですが、自分でできることは確実に、目標を持ち、何事にも前向きに患者さんと向き合っていきたいと思っています。

## 発表報告



森之宮病院診療部  
小児神経科医長  
**荒井 洋**

### アメリカ小児科学会・ アジア小児科学会合同会議

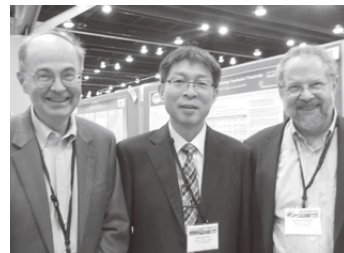
#### 超早期産児の核黄疸の存在が 国際的に認められる

日程：5月3日～6日  
場所：バンクーバー・カナダ

花盛りのバンクーバーで開かれた本会議には、北米全土およびアジアの小児疾患に関わる膨大な数の医師や研究者が集まりました。アジア側の会長は大阪大学の大園恵一教授が務められ、日本からの演題は過去最多に上りました。折しも4日にはバンクーバーマラソンが開催され、多くの学会参加者がチャリティーランで汗を流しました。

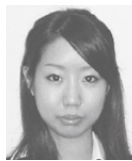
神経関係の演題は比較的少なかったのですが、我々と関係が深い新生児神経学の領域で最先端の知識を得ることができました。私は、まだ欧米で知られていない超早期産児の核黄疸に関するポスター発表を行いました。以前に応募したアメリカ脳性麻痺・発達医学会では却下された演題であったため不安を感じながらの発表でしたが、思いがけない展開が待っていました。発表時間前から核黄疸の世界的権威である Shapiro 教授と Watchko 教授が来られ、30分近くに渡って口々に賛同と励ましの言葉をいただきました。Shapiro 教授からは自らの研究データを示され、今後の研究方針に関して貴重なアドバイスを頂きました。

私にとって忘れられない一日となりました。一方で、現在調査を進めている超早期産児の小脳病変の領域では、北米の共同研究が我々の先を行っていることを知らされました。



国際交流を通じて、当院のみならず日本の小児神経学のレベルを向上させられるよう、臨床研究を続けたいと強く感じた学会でした。

## 発表報告



森之宮病院診療部  
医療社会事業課  
**綿巻 安純**

### 回復期リハビリテーション 病棟協会第23回 研究大会 in 名古屋

#### 広い視野を持って支援の質を 向上できるように務めたい

日程：2月7日～8日  
場所：名古屋国際会議場

回復期リハビリテーション病棟協会第23回研究大会 in 名古屋に参加して、「ソーシャルワーカーの行うアセスメントの質の向上をめざして」というテーマで、当課における取り組みの報告を行いました。支援対象者の身体・心理・社会面の状況を把握するための「アセスメントシート」の作成や活用により、若手ソーシャルワーカーの早期育成や、ソーシャルワーク業務の質の標準化、ス

ーパービジョンのスキル向上をめざした取り組みです。

「アセスメントシート」利用や研究発表により、アセスメント項目が意識の中に定着し、患者さんご家族の心情や価値観をより深く理解できるようになり、これまでより広い視野でケースを捉えることができるようになりました。

スーパービジョンにおいても、シート活用により可視化され、バイザーとバイザーが互いに情報共有しやすくなり、効率的かつ適切な助言や相談を行うことができるようになっていきます。

今後は、本人・家族のアセスメントだけでなく、院内職員や関係機関との関わりを可視化し、患者を取り巻くクライアントシステムを常に把握した支援をめざして活動していきたいと考えています。

今後も、今回の経験を活かし、ソーシャルワークの質の向上をめざして、より良い支援が提供できるよう努めたいと思います。

## 発表報告



森之宮病院  
リハビリテーション部  
作業療法科  
**神尾 昭宏**

### 第5回日本ニューロ リハビリテーション学会 学術集会

#### ニューロリハビリテーションに 関する幅広い知見を得た

日程：2月15日  
場所：砂防会館 別館

今回参加させて頂いた第5回日本ニューロリハビリテーション学会学術集

会は、医師やセラピスト、医療工学士など、神経系疾患の治療にあたる関連専門家の学際的交流を促進し、脳卒中や脊髄損傷、末梢神経障害などの神経系の疾患について、リハビリテーションの評価法や治療法に関する情報交換を目的として開催されました。

私の演題発表は「負荷量の相違が手指屈筋・伸筋の筋疲労に与える影響」で、末梢性筋疲労といった観点から、表面筋電図を用いて浅指屈筋・総指伸筋・示指伸筋の疲労特性に相違が見られるかを検討したものです。手指屈伸課題が可能な装置を作成し、これらの筋群の最大随意収縮の10%、30%、50%、70% M V C 課題を実施しました。筋疲労の指標として平均周波数、%積分筋電図、周波数帯域を用いた比較検討すると、10%、30% M V C 課題では大きな変化は見られず、50% M V C 課題では全ての筋で筋疲労に伴い%積分筋電図は増加しましたが、平均周波数では総指伸筋・示指伸筋が早期より徐波化を認めました。

これにより手指伸筋の速筋線維は屈筋と比較すると疲労しやすいた事が示唆されました。発表後、疲労特性の違いが何故起こるのか、モーターユニットの総数の違いが与える影響は、などについてディスカッションを行うことができ、今後の研究に役立つものでした。

本研究会での聴講や演題発表、他施設の先生方とのディスカッションを通して、ニューロリハビリテーションに関する幅広い知見を得ることの重要性と、臨床でリハビリテーションを提供する医療従事者として、それらの知見をいかに臨床で応用し、かつ、それがより効果的であるかを検討する重要性を

感じました。今回の学会に参加させて頂き学んだことを、日々の治療に活かしていきたいと考えております。

### 第29回日本静脈経腸栄養学会学術集会

参加報告



森之宮病院看護部  
6階東病棟  
松延 友紀

### 他職種との連携の必要性、栄養管理の重要性を再確認できた

日程：2月27日  
場所：パシフィコ横浜

今回の学術学会で栄養剤使用中の難治性下痢患者に多職種がチームとして関わり、患者の問題点を抽出していくという症例発表がありました。

内容は――①薬剤師による下痢の副作用への薬剤調整、②栄養士による栄養吸収時間の割り出しと栄養剤の選択、③それに基づいたリハビリセラピストとのリハビリ時間の調整、④ゆっくり吸収できるように投与スケジュールを作成、⑤投与スケジュールを基に患者の栄養投与管理を行いながら看護師間で排便状況のモニタリングを施行、⑥その結果を関係スタッフ間で情報共有し調整――という手順により、医師・コメディカル間でのコミュニケーションが図れ、患者の変化に応じた迅速な対応ができたというものでした。この症例を通し、早期からスクリーニングを行い、栄養障害が起きないように栄養管理を行い腸内細菌叢の回復と栄養状態の改善を目指していくことで感染リスクを下げる事ができ、それにより早期退院に繋が

っていくことを学びました。今後、当院のNSTでも、さらに栄養管理の充実化をめざし、他職種と連携を取り、栄養知識の普及を行っていく必要があると再確認できました。

6階東病棟では口腔外科疾患患者の入院も多く、その中で顎固定や開口障害などにより経鼻チューブからの栄養剤投与による栄養管理を必要としている患者も少なくありません。早期より栄養剤の投与を行うことで消化管運動が促進され、代謝反応亢進の抑制、免疫能の維持に繋げるため、全身状態・栄養剤の評価を行いながら創傷治癒を遅らせないように栄養管理を行っていきたいと思います。

そして発表の中で述べられた、「PEG（胃ろう）そのものが悪いのでは無く、使用方法が悪いためマイナスの情報世間で広まっている。良い適応と終末期適応と区別して上手に使うていく事が必要であり、本来苦痛・負担を軽減するために考えられた物であることを忘れてはならない」の言葉は、私の心にとっても印象深く残りました。

参加報告



森之宮病院看護部  
2階病棟  
片岡 貴雄

### 大阪府看護協会研修「リーダーシップ」

### 実践の中で経験を積み上げスタッフを導く

日程：12月6日～7日  
場所：ナースिंगアート大阪

チーム医療は、患者・家族を含めた医

療や医療福祉的なニーズを解決させていく活動であり、メンバーはそれぞれが持っている知識や技術を基に取り組んでいかなければいけないため、自らの知識や技術の向上を図っていく必要があります。その中で、リーダーとはチームの目的達成のためにメンバーを導き、やる気をおこさせ活性化させるために必要な存在であることを知りました。私は、病棟内でリーダーを努めています。求められるものすべてを持っていくわけではありません。いままでの医療専門職の義務となる原則の内容は、授業では学んでいましたが、経験を重ね自分自身の行動に照らしあわせ、どのような行動をしてきたか考える良い機会になりました。

今回の研修では、組織が成立するためには、共通の目的・共同意欲・コミュニケーションなどが必要ことが理解できました。リーダーを行っていくためには、組織がどのような方向性をもって活動しているかを考え、メンバーを導き、スタッフの意欲を高め、各々の能力を最大限に伸ばすため、個々に合った成長方法をマネジメントすることが必要です。今後、今回の研修で学んだことを実践できるようにしたいと思います。

参加報告



ケアプランセンター  
東成おおみち  
センター長  
片山 治子

### 「ターミナルケアにおけるケアプランの作成」研修

### 改善点を見出し、課題解決へのヒントを得る事ができた

日程：3月18日  
場所：大阪府社会福祉会館

安達眞理子氏による「ターミナルケア・緩和ケアについての概念整理」、「ターミナル期におけるケアマネジャーの役割」、「ケアプラン作成上の留意点をテーマにした講義を受けました。

今回の研修は新しい視点を学ぶというより、これまで担当させて頂いたターミナル期の方のケースを振り返り、改善点を見出すという点で学びを得られました。具体的には、①支援開始時には医師が病気についてご本人、ご家族にどの程度話をしていくか、ご本人ご家族はそれをどこまで理解しているか、ご本人に受け止めておられるかの確認を行うこと、②支援開始後は、今後の変化を予測しながらご本人とご家族の希望する生活が可能な限り継続できるように、ケアプランの修正・追加を行っていくこと、③ご本人が亡くなられた後もご家族を支援(グリーフケア)していくことです。①は医師及びご本人・ご家族とのコミュニケーション、②は医療知識及び在宅を支援する医療者との連携、ご本人・ご家族との信頼関係、③は自己覚知と豊かな感受性がキーになってくるのでは、と考えます。

これらの課題に取り組む方法として、書籍等から学びを得る、事業所内でグループスーパービジョンを行う、スーパーバイズを受けるなどの方法が考えられるため、一つでもよいので改善に向けて取り組んでいきたいと思っております。



ケアプラン  
センター東成  
おおみち



ケアプランセンター  
東成おおみち  
片山治子センター長

## 日本福祉大学大学院 社会福祉学研究所修士課程修了

私は、この3月に日本福祉大学大学院社会福祉学研究所(通信課程)の修士課程を修了しました。大学院の門を叩いた2年前、別法人の認知症対応型デイサービスで相談・介護業務に従事していました。研修を通じて、パソコン・センタード・ケア(PCC)<sup>※1</sup>という認知症ケアの理念に出会い、実践に活かそうと奮闘していましたが、それは容易ではありませんでした。それが修士課程をめざす大きなきっかけでした。PCCの実践度を高めるにはどうすればよいかを研究することによって自分の行き詰まりを解消できるのでは、と考えたからです。

研究では、高齢者施設での認知症ケアの質の向上をテーマに、ドーン・ブルッカーが考案したVIPSフレームワーク<sup>※2</sup>を使ったアンケート調査、及び現場リーダーへのインタビュー調査を行いました。その結果、ケア現場では、PCCの真

髓とされる「価値を認める」に関して、職員自身が自らの価値が認められていると感じられるような仕組みがない、内部研修の実施が質の向上に貢献していない可能性がある、などの要因により、PCCの実践は充分ではないこと、リーダーによる職員への裁量権の付与やモデル提示によって、PCCの実践度が高められていることが明らかになりました。

今回の研究では、PCCの実践には職場全体としての取り組みと、リーダーによる積極的かつ具体的な取り組みが必要であることが示唆されました。今後、居宅介護支援事業所の管理者としてこの成果を活かし、より質の高いケアマネジメントが行えるようPCCの実践に取り組んでいきたいと考えています。

※1 1990年代初めにイギリスの社会心理学者、トム・キットウッドが提唱したもので、日本語では「その人を中心としたケア」と訳されている。

※2 「V」は「人々の価値を認める」、「I」は「個人の独自性を尊重する」、「P」は「その人の視点に立つ」、「S」は「相互に支え合う社会的環境を提供する」。

片山センター長の本論文は、日本福祉大学大学院社会福祉学研究所で研究された修士論文26本の中から優秀賞(3本)に選ばれました。おめでとうございます。

グリーンライフ

## 今年もお花見に行きました

今年も療養棟では恒例になつてお花見に行きました。初春より気温の変化が激しく、桜の開花も例年より早まり、4月第1週目の週末には天気も崩れ桜も散る予想でした。その為、予定を大幅に変更し、桜が満開の時に利用者の方々に観て頂くとうとの想いで開催しました。

利用者様の車を押して施設の近くにある千間川公園

まで行き、満開の桜を観ながら、甘酒やノンアルコールビール、おつまみを食べさせて頂きました。利用者様も大変喜ばれ「甘酒、懐かしい美味しい。桜を観ながらこんな飲んで嬉しいわ。来年もみんなと一緒に桜を観たいねえ」と目に涙を浮かべて話しておられました。

柔らかな日差しの中、利用者様と一緒に花見ができ、普段、施設の中では見られない利用者様の活き活きとした表情を見る事ができました。楽しい一時を利用者様と過ごせ、本当に良かったと思います。



利用者様の活き活きとした表情を見る事ができました。楽しい一時を利用者様と過ごせ、本当に良かったと思います。

(グリーンライフ療養サービス部3科 藤田浩光)

グリーンライフ

## ボバース記念病院歯科診療部との 合同実践報告会を実施

平成26年3月28日(金) 森之宮病院ウッディホールにて介護老人保健施設グリーンライフとボバース記念病院歯科診療部合同の実践報告会を実施しました。

日々の業務において、問題としてある事や今後必要と考えられる課題をテーマとし、1年間取り組んだ内容を発表しました。私たちグリーンライフ療養サービス部3科では「考えよう!ターミナルケア!」という

テーマで、普段取り組んでいないターミナルケアについて学んだ内容を発表しました。

きっかけは今年度ターミナル期に入ったご利用者がおられ、施設職員として何が必要かを学ぶ事が大切だと研究メンバーで話し合ったことです。具体的に実施した内容は、各書類作成と研修参加、施設においての勉強会でした。今後の課題も沢山ありますが、本研究を通じて今後ターミナルケアにつ



いての知識向上を図っていきたいと思います。

(グリーンライフ療養サービス部3科 辻中貴博)

頑張っている職員に注目!

ただ今、奮闘中

#44

## 明るく情熱的!が 患者さんの信頼を集める

森之宮病院リハビリテーション部作業療法科

姜美順(カンミスン) 科員

現在、森之宮病院リハビリテーション部作業療法科に、韓国出身の姜美順さんが所属しています。リハビリテーション部で初めての海外からの入職者です。

姜さんは、韓国で作業療法士の資格を取った後、日本語を2年間勉強し、日本の大学で作業療法士の資格を取りました。日本語は読み書きともにとっても上手です。一方で、緊張すると上手な日本語が途端にカタコトに変わるという可愛らしい一面もあります。

入職当初は環境の違いに戸惑うこともあったと思いますが、持ち前の明るさで職場にも慣れてこられました。治療では自信を持って患者さんと関わる姿が印象的で、患者さんからも信頼されています。勉強熱心で患者さんの治療にはとても情熱的です!また、韓国から講師を招いた講習会で資料の翻訳や通訳をしており、通常業務以外にも貢献しています。さらに仕事だけでなく、職場のイベントを積極的に企画し、職場の空気を明るくしてくれる存在です。

今後も明るく情熱的な姜さんに期待しています。

(森之宮病院リハビリテーション部作業療法科 田中菜摘)



森之宮病院

登録医紹介 22

大道医院

大道博士 医師 (医学博士)

大阪市都島区大東町2-21-12

電話06(6921)5461

内科・皮膚科・リハビリテーション科



大道院長は呼吸器内科が御専門ですが、現在は開業されている地域でプライマリ・ケア医として、人々の医療と介護両面からの支援を目指して尽力しておられます。

「プライマリ・ケア医として最適な診療を行う事は重要な使命ですが、そのためにはまず患者さんの病状や状況を良く汲み取る事が大前提と考えます。ですからスタッフ一同で、どんな事も気軽に相談しやすい雰囲気作りに努めています。患者さんの話に良く耳を傾け会話をして行くうちに、患者さん自身が自分の体調に対して理解が深まり、自ら健康を維持する意欲が高まる、そんなお手伝い出来る様に願いつつ日々診療しています。また、住み慣れたこの地域で生涯を全うしたいと言う高齢者の方々のために通所や訪問の介護事業も併設し、独居高齢者の方でも安心して在宅療養生活を維持出来る様にスタッフ皆で御支援しております。」とおっしゃる大道院長。

ルネサンス期の美術鑑賞がマイブームとの事です。優しい笑顔と柔和な雰囲気でお話をされるお姿が印象的でした。

(森之宮病院診療部地域医療連携室 平野奈央)

この号が発行される頃には騒ぎはどうなっているでしょうか。原稿を依頼された日は理研の小保方氏糾弾の会見が行われた日でした。STAP細胞発見会見の時は、「夢の若返り」との発言もあり期待されたものですが、僅か数ヶ月で・・・。

Medical Doctor's Voice #61

## 研究も医療も真摯に



森之宮病院診療部  
リハビリテーション科

吉岡 知美

風潮が高まっているように思えます。不正は不正として断罪しても、日本特有の自虐的風潮で研究者を過剰に委縮させないでほしいです。臨床の場面でもいろいろなお話がありますが、真面目に正直に一步ずつ委縮せずに難題をクリアしていきたいと思えます。

「若返り」は永遠の難題ですね。小保方氏の一件以来、日本の研究者の粗探しをする

り新しい発表や報告は見かけません。老化と病気の境が曖昧なことが一因なのかもしれません。が、「老化」や

が示唆されています。さらにクロトー蛋白はFGF23を介して、腎尿管でのリンの再吸収を抑えたり、近位尿管での1α-hydroxylaseの活性を抑制することでビタミンDの活性化を抑えることも報告されています。数年前まではクロトー遺伝子に関する報告が次々と出されていきましたが、最近はおま

## IBITA教育委員会に参加

IBITA(世界ボバース講師会議)教育委員会が、3月16日～18日に開催されました。場所は、National Hospital for Neurology and Neurosurgery (ロンドン)の1室で、参加者は、教育委員のメンバーである、マーク・ミシェルソン(議長・ベルギー)、ジュリー・グラハム(カナダ)、アン・ホーランド(英国)そして私の4人です。この委員会は、大道会でも開催されているボバースアプローチ基礎講習会の各国の水準を維持し、発展させていくために、世界のインストラクターにガイドラインを提供するのが目的です。今回の会議の内容は、大きく3つありました。

①従来のシニアインストラクターが

決定していたインストラクター認定制度を2015年9月1日から新制度に移行する案の検討

②基礎講習会のガイドライン(コアカリキュラム)に記載されている実技の指導内容の改編

③ボバースアプローチを実践する際に、ケースの評価、治療の過程を図式化し、世界のインストラクターが講習会で使えるように修正

今回の会議内容は、世界のメンバーに発信され、9月にイタリアで開かれるIBITA会議で検討される予定です。3日間片言の英語でしたが、日本の状況も説明し、文章作成も一部行いました。メンバーが親切に対応してくれたため、無事に会議を終え

ることができました。会場の病院はロンドン中心部の大英博物館の近くにあり、そばには綺麗な公園がありました。会議終了後はかなり疲労困憊していましたが、公園の水仙が綺麗に咲いており、私を癒してくれました。

(ボバース記念病院リハビリテーション部部长 鈴木三央)



会議終了後のひととき

## 土井鋭二郎PT科員が上級講習会インストラクターに就任



ボバース記念病院リハビリテーション部理学療法科所属の土井鋭二郎科員は、3月28日、紀伊赤松IBITAシニアインストラクター・森之宮病院名誉副院長から、成人中枢神経疾患部門の上級講習会インストラクターとして認定されました。認定おめでとうございます。

当法人内での上級講習会インスト

ラクターの誕生は、2002年のボバース記念病院の古澤現名誉副院長以来12年ぶりの快挙です。土井科員は、上級講習会インストラクターになるために4年の歳月をかけて、臨床技術と理論面での厳しいトレーニングに励まれました。

今後は、上級講習会という質の高いレベルの療法士向けボバース講習会を開催していくことになります。IBITAインストラクター及び上級講習会インストラクターは、大道会とリハビリテーション部にとって貴重な財産でもあります。土井インスト

ラクターが、脳卒中後遺症などの患者さんのいっそうの機能向上をめざしてボバースアプローチを発展させ、国内そして国際的な牽引役として活躍されることを願っています。(ボバース記念病院リハビリテーション部理学療法科主任 藤田良樹)

### ご寄付を頂きました

日吉美和子様(東大阪市)よりご寄付を頂きました。ありがとうございます。有意義に活用させていただきます。

### Live30【ライブサーティ】

2014年5-6月号 vol.204 (隔月発行)

編集発行人/社会医療法人 大道会

〒536-0023 大阪市城東区東中浜 1-5-1

TEL.06(6962)9621 FAX.06(6963)2233

#### ■大道会

社会医療法人大道会本部

T EL 06(6962)9621

森之宮病院

T EL 06(6969)0111

ボバース記念病院

T EL 06(6962)3131

森之宮クリニック(PET画像診断センター)

T EL 06(6981)9600

帝国ホテルクリニック(人間ドック)

T EL 06(6881)4000

大道クリニック(人工透析)

T EL 06(6961)5151

介護老人保健施設グリーンライフ

T EL 06(6965)0666

訪問看護ステーションおおみち

T EL 06(6967)1123

訪問看護ステーションおおみち森之宮営業所

T EL 06(6942)3737

訪問看護ステーション東成おおみち

T EL 06(6977)8680

ケアプランセンター城東おおみち

T EL 06(6964)5285

ケアプランセンター東成おおみち

T EL 06(4259)5311

レンタルケアおおみち

T EL 06(6967)6250

特別養護老人ホームサンローズオオサカ

T EL 06(6974)7388

東成山手学園(保育園)

T EL 06(6974)7377

●パソコン <http://www.omichikai.or.jp>

●携帯 <http://www.omichikai.or.jp/i.cgi>

バーコードを読み取っていただくと、大道会の携帯サイトにアクセスできます。



### 編集後記

梅雨の走りでしょうか、ぐずついたお天気の日が続いております。今年も大道会はたくさんの新人を迎えました。

新入職の方々が日々一生懸命頑張っている姿を見ると、とても刺激を受けます。

季節の変わり目、体調に気を付けて皆様頑張ってください。

(広報推進委員/ボバース記念病院診療技術部薬剤科 奥村馨子)

